2022 年度 児童養護施設 湯出光明童園 事業報告

1．事業目的・経営方針

『いつくしみ（慈愛）をたたえた まなざしをもとう（眼施)』の理念のもと、「子どもの笑顔のための大人の笑顔！」をスローガンとし、基本的人権を尊重し、子どもが心身ともに健全に発達し、自立した社会人として生活できるように、子どもの最善の利益のために必要な支援を行った。

2．組織構成

① 入所者定員

各月 1 日付け

月　数	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
定　員	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	
在籍児童	39	38	38	38	38	38	39	39	39	39	39	39	463
一時保護	0	1	1	0	1	1	4	6	5	5	3	8	35
入所率	78.0	76.0	76.0	76.0	76.0	76.0	78.0	78.0	78.0	78.0	78.0	78.0	

（令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日間）

□1　定　　員　：50 名（本体施設 38 名、地域小規模養護施設 12 名）

□2　入所児童　：　2 名（未就学児 1 名、小学生 1 名）

□3　退所児童　：　6 名（就職 1 名、進学 1 名、家庭引き取り 2 名、措置変更 2 名）

□4　年間入所率：77.1%

□5　一時保護委託：月途中　23 名（4/7～30、7/9～14、7/7～8、7/21～31、8/22～25、9/7～30、9/26～30、9/16～27、9/16～30、10/3～5、10/6～30、2/8～28、3/16～31）

② 児童編成（2022.3.31）

	3 歳未満児	未就学児	小学生	中学生	高校生	合計
男	0	1	8	9	2	20
女	0	2	6	6	1	15
合計	0	3	14	15	3	35

③ 職員構成（2022.3.31）

園　長		1	事 務 員	2
直接処遇職員	児童指導員 保 育 士	16	栄 養 士	1
			調 理 員 等	6
			看 護 師	1
家庭支援専門相談員		2	非常勤職員	3
里親支援専門相談員		1	嘱 託 医	1
心理療法担当職員		1	宿直専門員	7
個別対応職員		1	合計	43

３．児童処遇

【 Ⅰ 】養護

① 食育 （別紙１参照）

季節に合った食材を使用し、節句等の行事にちなんだ献立の提供を行った。ホーム調理等の食に係わる取り組みは新型コロナウィルス感染拡大に伴い、ほとんどを取りやめた。

② 健康管理 （別紙２参照）

児童の健康管理・維持に努め、予防接種等、必要に応じて病院受診を行った。新型コロナウィルス感染症予防のため、体調確認、手指衛生、マスク着用、３密を避けるといった感染症対策への意識が高まるよう努めた。

③ 行事 （別紙３参照）

年間を通じて、子どもの自立や社会化を目的とした園内活動を企画し実施したが、新型コロナウィルス感染拡大に伴い、ほとんどの全体行事を取りやめたが、一部の行事については、感染状況をみながら、感染対策を行い、ホーム単位の少人数で実施した。

④ 性（生）教育

看護師・園内性教育委員（SK-Ⅳ）が中心となり、女子児童には『プライベートゾーン』『生理について』、男子児童には『プライベートゾーンについて』『二次性徴』『精通』について等の話を全体に、または対象となる児童へ個別に話を行い、性（生）についての学習に取り組んだ。外部講師を招いての研修は新型コロナウィルスの感染拡大のために見送った。

⑤ 情操教育

□1 西念寺住職による法話

月に１回（第一日曜日）、西念寺住職に園に来ていただき、子どもたちに命の大切さ、自分の大切さについて話をしていただく機会を設けた。新型コロナウィルス感染拡大に伴い、状況に応じてZoom で行った。

⑥ 家庭支援 （別紙４参照）

保護者への支援および児童の家庭復帰に関しては、保護者と児童の意向に寄り添いながら２名の家庭支援専門相談員が中心となり児童相談所をはじめ、各市町村の福祉課や関係機関との連携を密に図ってきた。インケアからリービングケア、そしてアフターケアといった支援を点から線に繋ぐことを意識して行った。

⑦ 地域小規模児童養護施設

子どもの自立（生活習慣の確立）と、社会への適応性（処遇の社会化）の啓発と家庭生活体験の支援を諮った。小学生・中学生・高校生の男児が生活を送り、食事の準備の手伝いや掃除等にも協力して取り組むことが出来ていた。

□1 明日家ホーム（男子）

□2 親和ホーム　（男子）

⑧ 処遇困難事例研究 （別紙５参照）

様々な背景を持った児童の育ちを保障するために、職員のスキルアップを目指し、ケース検討会に外部より助言者を招き、子どもへの関わり方の質と処遇技術の向上に向けた取り組みを行ったが、新型コロナウィルス感染拡大予防の観点から、感染状況や県のリスクレベルを考慮して実施した為、予定していた６回の検討会の全てを行うことは出来なかった。※ケース検討会 助言者：熊本ルー

テル学院大学 教授 永野典嗣 氏　（R4.10/21・11/18・12/16・R5.2/17・3/17）

⑨「ＣＡＰ」への参加

子ども向けワークショップを計画していたが新型コロナウィルス感染拡大予防に伴い中止とした。

⑩ 湯出小学校・水俣第一中学校との連絡協議会

湯出小学校・第一中学校に在籍する児童の施設での支援・学校での指導等について学校職員と当園職員で意見交換、検討を行ったが、新型コロナウィルスの感染拡大に伴い例年通りの実施は出来なかった。そのため随時各担任、各担当との密な情報交換により一層の処遇向上を目指し、全体的な支援と連絡協力体制の強化を諮った。

湯出小学校：4/28

第一中学校：実施なし。※各担当、担任間での情報共有は適宜行った。

⑪ 家庭生活体験事業

長期休暇（冬休み）を利用し、社会性や情緒の安定、自立促進を目的に里親家庭やボランティア家庭などで宿泊を伴って家庭生活を体験した。※夏休みは新型コロナウィルス感染症の感染拡大を懸念し、実施を見合わせた。

【 Ⅱ 】自立のための援助

① 行事　（自立支援）　（別紙３参照）

公共交通機関を利用した行事については新型コロナウィルスの感染染拡大により取りやめたが、一部の行事については、感染状況を考慮しながらホーム毎の少人数で実施した。

②リービングケア

□1 企業体験

YMCA フィナンソロピー協会主催の「お仕事カフェ」(協会に所属している複数の企業が参加し、それぞれの企業がどんな仕事をしているかの説明を受ける）に参加予定であったが新型コロナウィルスの感染拡大予防の観点から参加を見合わせた。

□2 ブリッジフォースマイル「巣立ちのセミナー」

NPO 法人ブリッジフォースマイル主催「巣立ちのセミナー」全６回に高校３年生２名（男女各１名）が参加し、高校卒業後の生活に役立つ知識を学んだ。新型コロナウィルスの感染予防のため、状況に応じてオンラインや集合型での参加となった。

□3 高校３年生を対象に、「病院受診の方法、医療費の実際」についての講習等を当園看護師が行った。

③就職・進学・学習支援

□1 就職　　らぷらんどカフェ（八代市・就労継続支援Ｂ型事業所）

□2 進学　　高等学校：水俣高校、八代白百合高校、鏡わかあゆ高等支援学校

　　大学　　：大分大学

④ ＣＡＰ

卒園前の子どもを対象にワークショップを予定していたが、新型コロナウィルス感染拡大予防を考慮し中止した。

⑤ 家庭訪問　（別紙４参照）

家庭復帰を見込む家庭に対し環境把握、環境調整を目的に家庭訪問を行った。

【 Ⅲ 】アフターケア

退所した児童に対して、職員が時折連絡をとるなどし、退所後も安心して施設を頼ることができるよう対応した。また家庭復帰となった児童宅には電話連絡等を行い、現状把握とともに関係性が途絶えないよう対応した。

4．職員処遇

① 福利厚生

新型コロナウィルスの感染拡大と感染拡大予防の観点から、職員旅行や新入職員の歓迎会などのイベントは実施できなかった。

② 職員研修　（別紙５参照）

児童処遇向上を諮るべく、全養協主催の研修会や県養協主催の研修会等の各種研修会に職員の参加を計画していたが、新型コロナウィルスの感染拡大により研修会が中止になることもあり、例年のように参加する事はできなかった。できる限りの研修に職員を派遣し、子どもたちへの質の高い支援を目指し、併せて職員の交流を行い、施設運営と児童処遇の向上を諮った。

③ 自主研修　（別紙５参照）

□1 他施設見学での職員研修

新型コロナウィルスの感染拡大に伴い実施しなかった。

□2 園内研修　：12/7「こころの健康の為に今日からできること（メンタルヘルス)」

「感染予防について」（オンライン・Zoom）

講師：株式会社くまもと健康支援研究所　　吉田知香　氏

3/7「親子関係の行動観察からひもとくアタッチメント理論」（オンライン）

講師：あおきメンタルクリニック　青木豊　氏

□3 新人研修　：1/20　2/7　2/17

□4 法人研修

全体研修

5/18：「社会福祉法人 光明童園 職員として」（オンライン）

講師：理事長 堀 浄信 氏

11/2：「大人が笑えば子どもも笑う」（オンライン）

～子ども・家庭を取り巻く現代課程を取り巻く現代的課題と私たちでできること～

講師：大阪府子ども家庭サポーター・社会福祉士　辻 由紀子 氏

階級別研修

初級研修：5/11・10/7　　中級研修：9/15・9/30　　上級研修：11/4・11/16

講師：理事長 堀 浄信 氏　（全階級）

ひかりっこセミナー　1/29：「地域における子ども・子育て支援」

講師：厚生労働省 子ども家庭局総務課 課長補佐　胡内 敦司 氏

□5 湯出小学校との合同勉強会と情報共有

8/2：講演会「二次障害を持つ子どもの予後について～入院を経験した子どものその後～」

講師：吉田病院（人吉市）精神科専門医 興野 康也 氏

3/8：講演会「発達症の就労支援～具体的なケース支援を通して～」

講師：吉田病院（人吉市）精神科専門医 興野 康也 氏

情報共有会：4/12・5/27・6/24・9/16・10/21・11/25・12/21・1/27・2/24・3/17

④ ＣＡＰ研修　（別紙５参照）

にじいろ CAP による人権擁護に基づいた職員向けワークショップを計画していたものの、新型コロナウィルスの感染拡大に伴い実施を見合わせた。

⑤ 各委員会活動

各委員会・係を設け、それぞれに全職員が所属し活動を行った。

５．権利擁護

① 暴力防止

不適切なケアの予防のための自己チェックシートの実施。（年２回）

② 苦情処理等相談　（別紙６参照）

□1 意見箱の設置

各ホームに意見箱を設置し、子どもたちの意見や苦情を自由に投書できる環境を整えており、投書については苦情処理担当職員が聞き取りを行い、苦情処理相談を行った。

□2 第三者委員会

苦情報告会議の実施。（5/12：令和３年度受付分 17 件報告）

□3 ホーム会議、全体会議の実施

毎週末毎に子どもたちが主体のホーム会議や全体会において、要望や希望を聞く機会を設け、挙げられた意見を全職員にて共有することによって、より安心安全な施設となるよう善処した。

③ 児童養護施設における人権擁護のためのチェックリスト

チェックリスト（個人版・施設版）をもとに全職員が自己評価を実施し、その結果を踏まえて施設の在り方について考えた。（90/90 点）

④ ＣＡＰ研修

上述した報告の通り。

６．危機管理

① インシデント・アクシデント　（別紙７参照）

子どもたちが安心して生活が送れるように、インシデント・アクシデント報告書の提出を実施し、職員の危機意識の向上を諮った。また、日誌へ記載された日常の生活の中でヒヤリハット事案には＠を付け、報告書までには至らない小さな気づきを拾い上げることで、更なる職員の危機管理に対する意識の向上を諮った。

※ 湯出安心安全委員会で、インシデント・アクシデント事案、＠事案の内容と対応策を、外部有識者の方にも見ていただき助言を頂いた。

② 災害及び避難訓練　（別紙９参照）

毎月、避難訓練を実施し、子ども・職員の火災予防に対する意識の高揚を諮り、命の尊さ、物の大切さを学び、災害防止に努める心を育んだ。また、災害対策要綱の中に、水害・土砂災害に関する要綱も盛り込み、全体への意識づけも行った。

③ 総合防災対策

防火設備等の点検を行い、消費期限の近い非常食の入れ替えを行い、備蓄は５日分を備えた。また、来年度に向けた消費期限の確認を行い、消費期限の近いものは新たに購入して入れ替えを行った。

④ 防犯対策

防犯カメラ・防犯用赤外線センサー・さす股等を設置し、防犯の強化を諮った。

⑤ 衛生管理　（別紙５参照）

感染症予防対策研修（職員対象）

講師：くまもと健康支援研究所　　吉田　知香　氏　（12/7 実施）

感染症対策用品の確保、備蓄

毎日朝、夕にホーム内高頻度接触面のアルコール消毒を行っている。

新型コロナウィルス感染者の対応は蔓延防止のために入院したり、ゾーニングや別棟に移し極力接触が少なくなるよう対応している。

７．地域交流支援

① 地域交流

より良い施設の社会化を諮る目的で、地域との交流を深める企画を立て、実施する予定にはしていたが、新型コロナウィルスの感染拡大に伴い実施することが出来ず、地域主催の催しも中止になったために参加出来なかった。

② 童園祭

新型コロナウィルスの感染拡大予防の観点から中止はしたが、童園祭が地域の方に感謝を伝え、園を知ってもらう為の良い機会となっている為、子どもたちと一緒に手作りのキーホルダーやアクリルたわし等を作り、地域の温泉センターの協力のもとに品物を置かせてもらい、地域の方々に品物を手に取って頂くことで感謝を伝える取り組みを行った。

③ ＰＴＡ活動

ＰＴＡ活動にも積極的に参加し、役員も務め学校行事にも参加した。各行事は新型コロナウィルスの感染拡大予防の観点から規模を縮小や中止など状況に応じて行われた。

④ 子育て短期支援事業

□1 トワイライトステイ：利用なし

□2 ショートステイ：利用なし

⑤ 3 歳半乳幼児健康診断

水俣市からの依頼を受け、心理士が保健センターにて健診スタッフとして参加した。

⑥ こころの健康アドバイザー

熊本県からの要請を受け、心理士がアドバイザースタッフとして参加した。

（コロナの状況により、オンラインで企画され、それに参加した）

⑦ 非常勤講師

家庭支援専門相談員が短期大学の非常勤として教鞭をとった。

⑧ 地域貢献活動

□1 放課後に地域の子どもが遊んで過ごすことの出来る居場所の提供を行った。

⑨ 里親支援　（別紙８参照）

多機関との連携を通じて周知啓発活動を業務の主に置き、地域住民の制度理解向上と里親リクルートを推進した。

８．施設整備

□1 各種点検

施設環境・設備等の点検を実施。

実施業者：立尾電設

□2 ムカデ防除工事

実施業者：ハーモニー総合サービス

実施場所：地域小規模児童養護施設２か所　　明日家ホーム・親和ホーム

□3 温泉配管・タンク洗浄消毒作業
　　実施業者：有限会社ツルカメ企画事務所
□4 本園　心ホーム・夢ホーム壁紙の貼替
　　実施業者：橋本インテリア
□5 遊具施設修繕
　　実施業者：株式会社小崎体器
□6 令和５年度開設予定の地域小規模児童養護施設の準備